

第25回日本人口学会大会

標記の大会は、昭和48年5月18(金)、19(土)の両日にわたり、慶應義塾大学医学部の予防講堂および北里講堂において開催され、準備委員会(代表・安川正彬経済学部教授)の多大の努力によって、盛大な日程を終了した。大会では総会、一般研究発表ならびにシンポジウム、それに、本年度は日本人口学会の創立25周年目に当たるので、それを記念する特別講演が南会長によって行なわれた。なお、シンポジウムのテーマは「人口静止をめぐる諸問題」であるが、これは明1974年が世界人口年であり、国連では第3回世界人口会議の開催を計画している。その会議では世界人口行動計画が策定されるが、中心課題には当然、人口静止が論議的となろうことを想定して、これに先がけ取り上げたテーマである。

大会プログラムは下掲のごとくである。

第1日(5月18日)

○一般研究発表

- 1 都市人口の分布の型について.....鈴木啓祐(流通経済大学)
- 2 ライフサイクルからみた婦人労働.....青木尚雄(人口問題研究所)
中野英子(〃)
- 3 Life Cycle Saving の理論について.....高木尚文(成城大学)
- 4 農家労働力流出構造の変貌とその問題.....林茂(人口問題研究所)
- 5 経済離陸期の人口動態.....大淵寛(中央大学)
- 6 経済成長と産業構造.....畠井義隆(明治学院大学)
- 7 人口推移率からみた全国都道府県の情勢.....仮谷太一(川崎医科大学)
大森健三(〃)
- 8 わが国有配偶女子出生力の最近の動向.....小林和正(人口問題研究所)
山本道子(〃)
- 9 年齢別推計人口についての一考察.....水野坦(総理府統計局)
長田富子(〃)
- 10 人口移動の統計的分析.....岡崎陽一(人口問題研究所)
- 11 国勢調査における社会経済分類別表章について.....大友篤(総理府統計局)
石田保夫(〃)
- 12 大都市周辺における都市成長前線帯の人口地理学的研究.....岸本実(立正大学)

○記念講演

人口研究の諸方途——日本人口学会創立25周年記念——.....南亮三郎(駒沢大学)

○総会

○一般研究発表

- 13 人口移動と文化の変動.....富田富士雄(関東学院大学)
- 14 フランスの人口老齢化と老人福祉対策.....岡田実(中央大学)
- 15 アルフレッド・ソーヴィと日本の優生保護法.....室三郎(人口問題研究所)
- 16 平均寿命の延長と人口増加の相関関係について
——人口爆発のメカニズム——.....永木春雄(日本家族計画協会)
- 17 人口政策の展開.....黒田俊夫(人口問題研究所)
- 18 世界人口年および世界人口会議と日本の問題.....北岡寿逸(国学院大学)
- 19 地域人口の解析.....鈴木継美(東北大)
松山恒明(宮城教育大学)

- 20 死亡率の標準化について……………植 松 稔(北里大学)
21 「死因」からみた世代生命表と静態的年齢別死亡数の比較的研究…飯 淵 康 雄(関西医科大学)
22 人口総数の変動と安定人口(第3報)……………安倍 弘毅(久留米大学)
矢野 邦夫(〃)
江崎 広次(〃)
田中 雅生(九州大学)
23 わが国民の健康状態に関する生態学的研究(コンピューターを用いた多変量解析)第11報 健康指標に与える生活時間の影響…山 本 幹 夫(順天堂大学)
寺尾 浩 明(〃)
塩原 秀子(〃)
土屋 基(〃)
24 戦後における女子人口再生産率のコードホート的観察……………山 口 喜 一(人口問題研究所)
金子 武治(〃)

第2日(5月19日)

○シンポジウム「人口静止をめぐる諸問題」

- 報告会……………座長…森 田 優 三(福岡大学)
曾 田 長 宗(国立公衆衛生院)
(1) 問題の提起……………村 松 稔(国立公衆衛生院)
(2) 後進国成長への道……………茅 陽 一(東京大学)
(3) 人口静止の社会生物学的考察……………松 永 英(国立遺伝学研究所)
(4) 経済学からみた人口静止問題……………安 川 正 彬(慶應義塾大学)
(5) 昭和47年第6次出産力調査結果の概要とコメント……………篠 崎 信 男(人口問題研究所)
青 木 尚 雄(〃)
濱 英 彦(〃)
総括討論会……………座長…寺 尾 琢 磨(慶應義塾大学)
補佐…村松 稔・安川正彬・大淵 寛
予定討論 (1) 曽 田 長 宗(国立公衆衛生院) (2) 上 田 正 夫(人口問題研究所)
(3) 国井長次郎(日本家族計画連盟) (4) 吉 田 忠 雄(明治大学)
(山口喜一記)

1973年度日本地理学会春季学術大会

昭和48年4月4日および5日の両日にわたり、1973年度日本地理学会春季学術大会ならびに総会が、東京学芸大学において開催された。一般研究発表は、水文・地形・気候などの自然部門において58題、および、集落・農業・地域開発・工業・都市などの人文部門において61題、合計119題の報告があった。また、恒例の巡検が、4月6日から7日にかけて、富山山麓、埼玉県東部、ならびに栃木県中部についておこなわれた。

一般研究発表のうち、人口に関する報告としてつぎのものがあった。

- 厚木市の変容(II)——人口動態——……………橋 本 真 司(日本大学大学院)
環境概念の地理学者による縦密化と公害認識に占める現代的意味…岡 田 真(駒沢大学)
近畿圏における都市圏の変容……………沢 田 清(日本大学)
産業基盤からみた日本の都市の一考察……………高 野 史 男(東京教育大学)
(高橋真一記)